



R4. 10. 31撮影

## 【巻頭言】

## 「接続強化のために」

大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘

福島県小学校長会安達支会の皆様には、日頃より本地区児童の健全育成にご尽力いただき、感謝申し上げます。コロナ禍が続く中、日々の教育活動はもとより、児童の安全・安心のための感染防止対策の徹底や心のケア等にもご配慮いただいておりますこと、重ねて御礼を申し上げます。

さて、子どもの成長過程において小学校の果たす役割が大きいことは、第2次性徴期を含む変化の激しい6年間を担うことだけでも十分はつきりしているわけですが、その入口にある幼稚園・保育所との接続、出口にある中学校との接続という点でも、大切な役割をもっていると感じております。近年、それらの接続の重要性がより強く意識されるようになり、幼稚園・保育所年長児後半におけるアプローチカリキュラムの取組や小学校における生活科を中心としたスタートカリキュラムの取組が充実してきています。成長の中で幼稚園・保育所から小学校へ、小学校から中学校へと新たなステップを踏み出す適度な抵抗感を持たせつつ、育ちと学びの連続性を大切にしていきたいものだと思います。

本村も、他市町村と同様、円滑な接続のための取組に力を入れているところですが、本村においては、全ての幼稚園・小中学校を1つの学園に見立て、一貫的教育を行う「おおたま学園」構想において、その実現を目指しています。幼稚園における3年保育を導入したことを契機に、学びの土台となる「非認知能力の育成」に一層力を入れることとし、その成長を小学校の教員も予め見取っておくことができるようにするため、また幼稚園児にとっても小学校生活への憧れを持てるようにするため、意図的・計画的な幼小の交流機会を設定しています。これらの取組や、その見取りを活かしたアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの実施により、幼小の接続は年々スムーズになってきていると、低学年児童の姿から実感しています。

一方、小中の接続については、以前より良くなってきているものの、まだ改善の必要があると感じています。主に中学校における時間的な余裕が少なく、教職員同士・児童生徒同士の交流の機会を設定しにくいことが要因として大きいのですが、小中の接続においても、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの考え方が必要だと思います。小学校における成長をリセットせずに、その延長として中学校生活をスタートさせることができるよう、中学校教員自身による小学校生活の見取りに基づくスタートカリキュラムの実施、小学校教員自身の中学校生活の見取りに基づくアプローチカリキュラムの実施が実現できればと思います。そのために、限られた条件の中でも、小中の交流を増やしたいものです。また、小学校においては、一部だけでも高学年における教科担任制に取り組んだり、日々の授業や各種行事の中で子どもたちに任せる部分を意図的に増やしていったりすることが有効だと思います。

幼・小・中の校種の違いは意味があって存在するわけですが、そこで育っていく子どもたちにとっては連続している成長の流れです。同じ中学校区内での幼保小中間の連携、校長会での連携など、校長先生方同士の一層の連携、リーダーシップの発揮により、幼保小中の接続が日常的なものになり、子どもたちの育ちと学びの連続性がよりスムーズで効果的なものになればと願っております。そのためにも、特にその中心にいる小学校の校長先生方の姿勢が大きく関わってくるものと思います。地域の未来を担う子どもたちのため、今後ともよろしく願いいたします。

## 【小教研関係全般】

## 小教研を通して、子どもの豊かな未来につながる教育活動の充実を図る

福島県小学校教育研究会安達地区会長 草野 和代  
(二本松市立岳下小学校長)

今年度の小教研は、「コロナ禍を乗り越え、子どもの未来を拓く」（令和4年度地区総会会長挨拶）という強い思いのもと、第Ⅶ期の基本主題を引継ぎ、第Ⅷ期1年次としてスタートしました。この新たなスタートを機に、新型コロナが収束に向かい、各会員が参集して研究協議会が進められることを願っていましたが、繰り返す感染拡大により、4月の総会は書面で、各研究部会は参集しない形で進めるざるを得ない状況となり、7月の前期研究協議会も感染急拡大に伴い直前に中止の決断をいたしました。コロナ禍も3年目となり、少しずつよい方向に向かうことを期待していましたが、一昨年度や昨年度より格段に多い感染者数に、各学校でも緊張の毎日を送られていたことと思います。

しかし、教育活動や研修に臨む私たちの意識は、大きく前進し、ICTを活用した教育実践を積み重ねるとともに、オンラインによる授業や研修会などが積極的に進められるようになりました。子どもたちは、授業の中でタブレットを使いこなすとともに、登校できないときもオンラインで授業に入り、不登校や別室登校であっても授業の様子を目にすることが可能になりました。教職員も、オンラインやオンデマンドを活用し、研修の機会を増やしています。私たちは、目的や内容により様々なツールを使い分け、情報交換や学び合いを進めながら、新たな考え方やスキルを着実に身に付けられるようになったのです。

10月5日（水）、本宮市白沢公民館において県研究協議会社会科部会が行われました。参加者を絞り、事前に録画した授業の様子をもとに協議を進め、参加者一人一人が使用したものの消毒を行う等感染対策に万全を期しながら、中身の濃い充実した研究協議が展開されました。11月10日（木）の後期研究協議会は、念願が叶い、ようやく参集して開催することができました。それぞれの教育実践を持ち寄り、情報交換や協議を深める中で、オンラインにはない参集することのよさ、参集しなければ感じ取れない大切な何かを多くの方々を実感されたのではないのでしょうか。さらに、ICTの活用研修、教科等の専門性を高める実技研修、授業の録画視聴に基づく協議など、「未来社会の創り手として必要な力」をはぐくむ教育活動の充実につながる研修が深められ、教職員のみなさんの前向きなエネルギーを感じることができました。

「コロナ禍」という大きな危機により、教育活動においても多くのことが制限され、子どもたちの未来への懸念や先の見えない閉塞感を味わいましたが、私たちは子どもたちとともに、この困難を日常の一部（with コロナ）に変えて乗り越えていかなければなりません。そのためには、社会や教育環境の急速な変化への適応と、「未来社会の創り手として必要な力」の育成が不可欠です。今こそ小教研の役割を再確認し、「子どもたちの今」を最大限に充実させ、未来を豊かに切り拓く教育活動の在り方を追究していく時です。小教研を通して教職員相互のつながりが深まり、子どもたちの未来を豊かに思い描きながら生き生きと教育実践を積み重ねていけますよう、また、会員のニーズを受け止めた研究活動が展開されますよう、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



県研究協議会社会科部会の様子

## 【特集テーマ】

## 自分の故郷に誇りをもち 努力できる子どもの育成

二本松市立塩沢小学校 佐久間 仁

今年度、塩沢小学校では、区長会会長さんをはじめ13名の皆様に学校運営協議会委員（コミュニティ・スクール委員）を委嘱しました。

この学校運営協議会では、子どもたちがどんな課題を抱えているのか、地域でどんな子どもを育てていくのか、何を実現していくのかなど、目標やビジョンを共有し、協働して課題解決に取り組む体制を整えています。そのために、「熟議」といわれる対話を重視し、課題解決を目指して対話を重ねながら、協働して取り組む自主的、実践的な活動（地域学校協働活動）を生み出しています。実践後は、それらの活動を振り返り、成果と課題をもとに学校運営の改善を図ることで、学校教育のさらなる充実を目指していきます。

本校では、学習支援ボランティアを募集したところ、多くの皆様から協力の申し出をいただきました。今年度に入り、各教科等で必要に応じてボランティアの方に依頼し、様々な学習活動に関わっていただいています。例えば、家庭科の調理実習では、包丁やガス器具の取扱い等を見守っていただきました。また、クリーン活動では、登校班ごとに分かれて活動する子どもたちが交通事故等に遭わないよう温かく見守っていただきました。参加者からは「子ども（孫）たちと一緒に歩けるのが楽しい」という感想をお聞きすることができ、こちらまで嬉しくなる思いでした。

今後も、保護者、地域の方との対話を通じて「学校としてできること」「家庭・地域としてできること」を話し合いながら、子どものために一体となって取り組んでいく「協働型」連携に努めていきたいと思えます。自分や故郷に誇りをもち、努力できる子どもの育成を共に目指していきます。



## 【特集テーマ】

## 「ふるさとを愛し ともに未来を 切り開くたくましい子どもの育成」

大玉村立玉井小学校 佐藤 則之

本校の教育目標は「ふるさとや自分に誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」である。教育目標具現へ向けた様々な取組の中で、特に子どもたちが「ふるさと」を意識することができるのが総合的な学習の時間である

本校の総合的な学習は、「ふるさと」をキーワードとした郷土教育が学習内容の大きな柱となっており、各学年のテーマは次の通りである。

3年：ふるさとの人・自然とつながる

4年：ふるさとの人・世界とつながる

5年：ふるさとの伝統・くらしとつながる

6年：ふるさとの過去・現在・未来とつながる

地域素材を教材化し、外部講師や学校支援ボランティアの協力をいただきながら学年のテーマに沿って取り組んでいる。



また、村教育の柱である幼・小・中一貫教育を実践するため、「おおたま学園」の主要事業の一つである「おおたま・オータム・フェスタ」では、村内の環境を生かした活動が展開され、縦のつながりを意識した意図的な実践を積み重ねている。3年ぶりに開催できた今年度は、3年生が村内の大倉山登山、4年生が安達太良山登山を行い、山頂からふるさと大玉村の景色を堪能した。改めて、自分が暮らすふるさとについての認識を深めるよい機会となった。

## 【趣味・随想】

## 地図に魅せられて

二本松市立杉田小学校 八巻 博之

江戸時代に精緻な地図を完成させた功績で知られる伊能忠敬は、天文学と測量術を学んでいました。上空から斜めに見下ろしたように描く鳥瞰図しかない時代に、「伊能図」に描かれた海岸線の正確さは、ロシアや欧米の船の動きを警戒していた幕府にとって国防上の大きな力になりました。

私と地図との最初の出会いは小学生の時です。それは、学校で市内の児童に配付した「わたしたちのきょうど ふくしまし」の地図です。その表と裏には、市内全図と駅前の鳥瞰図が描かれていました。中心部には「信夫山トンネル（昭和50年開通予定）」、西部には「東北自動車道（同）」が記されていたことを覚えています。私は、道路が駅を中心に放射状に伸び、市街地を形成している二次元の地図を眺めながら、実際の町並みを想像したり、今後の町の開発を空想したりするのを楽しんでいました。

GPSの活用により、現在の地図は大きく進歩しています。今やスマホを携帯していれば、自分の位置を地球上のどこにいても見失うことはありません。そして、自分を取り巻く社会の情報を瞬時に反映して表示する地図アプリは、リアルタイムな情報源として、日々の生活を豊かなものにしています。あの当時、伊能が天文や測量の技術をもとに地図を劇的に進化させたように、200年の時を経て、地図は大きな変貌を遂げました。ますます地図の魅力に引き込まれる自分がいます。しかし、情報社会の今、氾濫するビッグデータに埋没することなく、自分の立ち位置をしっかりと見つめていきたいと思えます。そして、目的地までの道筋を持ち、道を誤らずに進んでいくために、「自分の地図」をもつことが大切だと感じています。それは、校長として、そして、家庭人として、よりよく毎日を生きることに繋がると思うからです。

## 【趣味・随想】

## 「週末を歩く」

二本松市立旭小学校 菅野 芳弘

週末はできるだけ歩くようにしている。管理職になってからの趣味として、散歩、ハイキング・トレッキング、サイクリングをするようになった。

散歩は、家の周りが多い。買い物を兼ねてすることもある。公園を歩くことも多い。今週はどの公園を歩くか、毎回楽しみである。私のおすすめは、何と言っても吾妻運動公園と水林自然林（四季の里）だ。敷地が広いのでいろいろなコースが楽しめる。四季によって景色が変化するところもよい。イベントも多く、出店でおいしいものを買うことも楽しい。土湯や浄土平等のトレッキングも楽しみである。花見や新緑、紅葉のタイミングを調べて、いつ行くか考えるのも楽しい。

自転車では近い所にはクロスバイク、遠い所には折りたたみ自転車を使用している。サイクリングの楽しみは何と言っても風の気持ち良さだ。登りは苦しいが、下りは楽で心地よく風を感じる。

去年は、本校近くの「日山」に、大学生の息子と一緒に登山をした。山頂には田沢、茂原、葛尾の三地区の神社がある。かつては富士山が見える北限の山として有名だったが、今は更に北限の山が別に出ている。職員室には、日山山頂から富士山が見える写真が飾られている。ただし、私の肉眼では富士山が特定できなかった。秋祭りには、三獅子舞が日山山頂で奉納され、本校児童も参加している。山頂からの眺めは絶景なので、皆さんにも日山登山をおすすめしたい。

コロナ禍になって、あまり遠い所や高い山には行かなくなった。しかし、県北にも遊歩道や低くて登りやすい山がたくさんある。次はどこに行くか、楽しみは尽きない。



## 【新会員として】

## 地域とともにある学校をめざして

二本松市立小浜小学校 石川 勝佳

小浜小学校は、創立149周年の歴史と伝統のある学校です。岩代図書館や岩代公民館などの公共施設も近くにあり、小浜城址や万人子守地蔵尊・塩松神社など多くの文化財もあります。

地域の方々も大変協力的です。図書ボランティアや放課後子ども教室の皆様をはじめ、地域の多くの方々から子どもたちのためにお力添えをいただいています。先日は、校庭の向かい側にできたスズメバチの巣を地域ボランティアの皆様にご駆除していただきました。また、小浜小学校や地域の歴史について「岩代小浜の歴史と文化を護る会」のふるさと講師の先生に教えていただいています。歴史と伝統の重さ・地域の人々の小浜小学校に対する思いを強く実感しています。

小浜地区の恵まれた地域環境を生かし、保護者や地域・関係機関との連携による教育活動をとおして、地域とともにある学校をめざすとともに、子どもたちの可能性を伸ばし、社会性や郷土愛を育んでいきたいと考えています。



<地域人材から小浜の歴史を学ぶ>

校長会安達支会の皆様方には、日頃より温かく教え励ましていただき感謝しております。ふるさと安達のために、自分にできることを一つ一つ進めてまいりたいと考えています。今後ともどうぞよろしく願います。

## 【新会員として】

## 「大丈夫」に支えられ

本宮市立岩根小学校 渡辺 博明

若かりし頃、道徳と特別活動の研究校に赴任し、「学級会」の研究授業を行いました。その学校は、学校行事に「合唱祭」があるほど、音楽への思い入れも強い学校だったので、議題「学級音楽祭をしよう」は、子どもたちの意欲を高め、活発な話し合いにつながると思っていました。…自分だけは。しかし、残念ながら教師の思い入ればかりが先走り、議題が子どもたちのものとはなっていませんでした。当然、活発な話し合いとは程遠く、自分の教材研究の不足を恥じました。ふがいない思いで事後研究会を終えたところ、ちょうど退勤されようとしている校長先生と玄関でお会いしました。その校長先生は、道徳と特別活動を学校経営の中核に据えられていたので、申し訳ない気持ちがあふれてきました。「校長先生、今日は情けない授業をしてしまい、申し訳ありませんでした。」すると思わぬ言葉が返ってきました。「いや、いい授業だったぞ。」返す言葉もなくお話を伺っていると、「子どもに話し合いを任せ、子どもを信じた。学級会の本質は十分提案できてたぞ。大丈夫だ。教師が議題に惚れ込みすぎただけだ。目指す方向性は問題ない。だから大丈夫だ。博明君。」お帰りになる後ろ姿を見つめながら、その励ましの言葉に涙が出る思いでした。「大丈夫だ。」その言葉が頭の中で何度も繰り返されました。あれから十数年、校長の職に就いた今、今日、自分は子どもに勇気を与えたか、先生方のチャレンジを本気で支えたかと自問する日々です。しかし、今度は私が「大丈夫。」と言葉をかける番です。子どもと教職員を信じ、保護者と地域と共に歩み、子どもの成長を支えていく。そんな校長でありたいと思っています。安達支会の皆様、今後とも御指導よろしく願います。

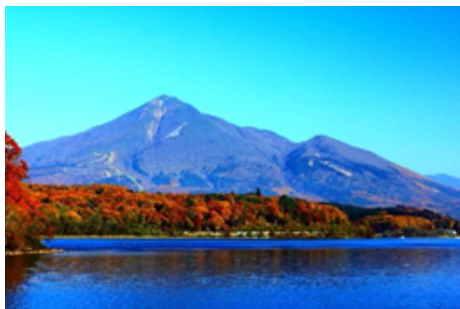
## 【新任校長として】

## 「〇〇校長先生の背中を追って」

大玉村立大山小学校 齋藤 和久

私は大学卒業後、会津地方の中学校に勤めることになりました。非常勤で週3日の勤務ではありましたが、毎日が新鮮で、「これでお金をもらえらるとは何ていい仕事だろう」と、喜びややりがいを感じながら教壇に立っていました。ところが、1学期の終わり頃から生徒たちは落ち着かなくなり、授業離脱、校舎へのいたずら（非常ベルを鳴らす、牛乳を壁にぶつける、水道を詰まらせる、ガラスを割る等）、校舎内での喫煙、対教師暴言・暴力、先生方の車を破損させるなど、いわゆる“荒れた”状態になってしまいました。苦しい日々が続き、保護者が学校内を巡回するようになり、臨時の保護者会も開かれました。卒業を間近に控え、卒業式や入試のことを話し合う職員会議が行われました。その会議は、夜の11時過ぎまでかかりました。最後に校長先生が「彼らに正論を言っても心に届きません。先生方、『自分はこれまでこうやって生きてきた、君たちはこれからどうやって生きていくつもりか?』と、彼らに本音で、本気で語りかけてほしい。」とおっしゃいました。私は、涙を流しながらこの話を聞いていたことを今でもはっきりと覚えています。新任校長として小学校に赴任しましたが、毎日が驚きと感動の連続です。職員から協力を得られなければ何もできないこと、一方で、職員が思いを一つにして取り組めば大きな壁も越えられることを経験しました。立場は校長となっても、かつてお世話になった校長先生のように、子ども達と真剣に向き合う教員でありたいと思っています。安達地区の校長先生方、どうか指導ご

鞭撻のほどよろしくお願いたします。



## 【新任校長として】

## 「共感」「共助」「共創」を基に

本宮市立白岩小学校 相樂 秀幸

自然豊かで歴史と伝統ある白岩小学校に着任し、早いもので8ヶ月になります。その間、運動会や授業参観、修学旅行、学習発表会など、試行錯誤しながら教育活動を進めています。その中で、子どもたちは頑張る姿、活躍する姿を見せてくれています。そして、その姿を引き出してくれているのが本校の教職員です。年度当初に本年度の教育活動推進に向けて、「共感」「共助」「共創」を基にしたチーム白岩小学校としての取組をお願いしました。共通理解、共通実践の大切さは十分理解しているつもりですが、同じ思いを常に心に留め、先生方が協力し合って様々な課題に向き合う姿を目の当たりにすると、校長一人ではなにもできませんが、組織として英知を結集することで、諸問題を解決していけることを実感いたしました。また、令和3年2月の福島県沖地震で被災した本校体育館の改良復旧工事が先日完了いたしました。この間、代替え措置として白沢体育館でのバス移動を伴う授業、白沢中学校体育館をお借りしての儀式的行事を実施してまいりました。学習環境が整備され、これまでどおりの教育活動が実践できる幸せをかみしめながら、子どもたちの笑顔のために、さらなる教育活動の充実に、チーム白岩小学校として励んでまいります。そのためにも教職員一人ひとりの強みを生かし（共助）、その力を一つに結集し（共感）、白岩小学校として価値あるものを創りあげていきたい（共創）と考えています。

最後になりましたが、いつも温かなお声をかけていただいております安達地区の校長会の諸先輩の皆様ならびに関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

